

1. 背景とねらい

富山県産ブドウは多様な品種が販売されているが、需要が多い旧盆時期の主力大粒系品種は限られている。また、近年、消費者からは大粒で外観が美しく、種無しで食味良好な品種が求められている一方で、生産者からは、開花期のジベレリン(以下、GA)による無種子化処理やその後の果粒肥大促進処理に多大な労力がかかるため、作業の軽減化が求められている。そこで、福島県果樹試験場が育成し、本県において旧盆時期に収穫が見込める黒色大粒系無核品種「あづましずく」(「ブラックオリンピア」×「四倍体ヒムロッドシードレス」、図1)について、本県における雨よけハウス短梢栽培での品種特性及び作業の軽減化について検討した。

2. 成果の内容

- ・雨よけ栽培において、「あづましずく」の収穫始期は8月5日、収穫時期に近い「バッファロー」より7日遅く「ブラックビート」より6日早い。収穫盛期は8月11日、「バッファロー」より10日遅く「ブラックビート」より3日早い(表1、図2)。
- ・1粒重は14.7gで「バッファロー」や「ブラックビート」より大粒で、果皮色は紫黒色で外観は良好である。糖度は17.2Brix%で酸味が少なく、爽やかな甘味がある。また、果汁が多いためジューシーな食感である。皮離れは容易で果肉は「ブラックビート」より軟らかい(表1、図1)。
- ・満開4日後のGA水溶剤50ppmの果房浸漬1回処理は、満開時25ppm及び満開4日後50ppmの花(果)房浸漬2回処理と比較し、収穫期は同時期で、果実品質はほぼ同等である(表2)。

表1 「あづましずく」の生育及び果実品質

品種 ¹⁾	栽培	樹齢	発芽期 ²⁾	開花期 ³⁾		収穫期 ⁴⁾		果房重		糖度	酸度	果皮色 ⁵⁾	裂果率
				始期	盛期	始期	盛期	(g)	(g)				
あづましずく	雨よけ・短梢	7	4/12	5/28	5/30	8/5	8/11	475	14.7	17.2	0.53	8.5	2.4
バッファロー	雨よけ・短梢	7	4/8	5/23	5/25	7/29	8/1	199	4.9	18.1	0.72	10.2	0.8
ブラックビート	雨よけ・短梢	9	4/13	5/30	6/1	8/11	8/14	407	13.5	18.0	0.59	10.0	1.3

¹⁾「あづましずく」はジベレリン水溶剤を満開時25ppm及び満開4～11日後50ppmを花(果)房浸漬する2回処理を行った。
²⁾「あづましずく」は2019～2022年、「バッファロー」は2018～2022年、「ブラックビート」は2016～2022年の平均値。
³⁾ただし裂果率については「あづましずく」は2019～2020、2022年、「ブラックビート」は2017～2022年の平均値。
⁴⁾全家の50%が発芽した日。⁵⁾始期は20～30%開花した花穂が80%となった日。盛期は80%以上開花した花穂が全体の80%以上となった日。
⁶⁾始期は過熟果を始めて収穫した日。盛期は果粒で50%以上収穫した日。⁷⁾農林水産省果樹試験場作成カラーチャート(ブドウ赤・紫・黒色系)を使用。

表2 雨よけハウス短梢栽培「あづましずく」のジベレリン処理回数が果実品質に及ぼす影響(2022年)

区 ¹⁾	収穫期	果房重	果粒数	1粒重	糖度	酸度	果皮色 ²⁾	無核率	裂果率
		(g)	(粒/房)	(g)	(Brix%)	(g/100mL)	(CC)	(%)	(%)
GA1回区	8/4～16	448.8	33.0	13.3	17.2	0.45	8.5	100.0	0.7
GA2回(慣行)区	8/4～16	436.7	29.4	14.7	17.2	0.46	8.7	100.0	0.7
有意差 ³⁾	-	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.

¹⁾GA1回区はジベレリン水溶剤を満開4日後に50ppm、GA2回(慣行)区は満開時25ppm及び満開4日後に50ppmを花(果)房浸漬した。
²⁾農林水産省果樹試験場作成カラーチャート(ブドウ赤・紫・黒色系)を使用。
³⁾t-検定によりn.s.有意差無しなお糖度、酸度、無核率及び裂果率については逆正弦変換後に検定した。-は検定未実施。



図1 「あづましずく」の果房

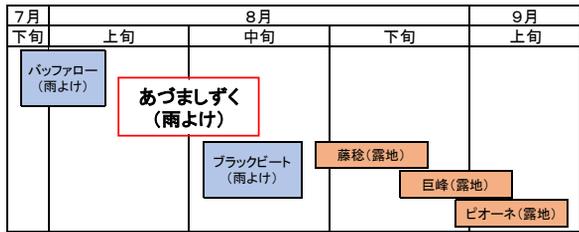


図2 「あづましずく」の収穫期(イメージ)

※「藤稔」、「巨峰」及び「ピオーネ」は令和4年度時点の県推奨品種(オレンジ色)、「バッファロー」及び「ブラックビート」は準推奨品種(青色)である。

3. 成果の活用・留意点

- ・本データは着粒安定と果粒肥大を図るため、開花直前に新梢(結果枝)先端を軽く摘心し、その後伸長した新梢先端を基部から先約2mで摘心し、副梢葉は2枚程度残して摘心する管理を随時行った樹から得られたものである。
- ・他品種と比べ新梢(結果枝)が基部から剥離しやすいため、誘引の際は作業時期を他品種より遅らせることや、捻枝をすること等の対策が必要である。
- ・着粒過多により着色不良及び裂果が発生するおそれがあるため、果房重450～500g(30～35粒)程度になるように着粒数を制限する。
- ・GA水溶剤の使用に当たっては、最新の農薬登録情報を確認する。